PETER DAVID BETER・音声書簡 第34号

1978年5月26日

テーマ1 宇宙で繰り返されるミッドウェイの戦い

1 ベターは真珠湾を戦術的な奇襲の一例として始めた。



2 彼は、戦艦砲と比較して空母機の新しい到達点を強調した。



3 サンゴ海は、空母戦争が強力な海軍作戦をいらいらさせる方法を示した。



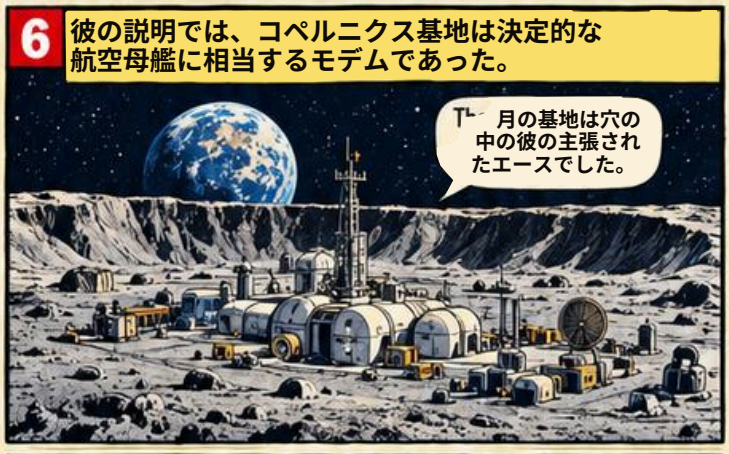
4 決定的な技術を失うことは、権力のバランスを逆転させる可能性がある。



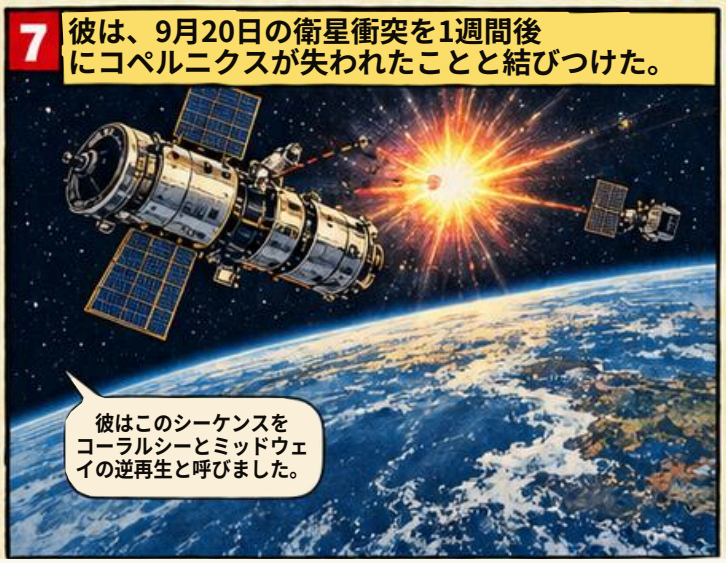
5 ベターは、後のアメリカ戦略が計画された戦争のために秘密の宇宙兵器を保管していたと主張した。



6 彼の説明では、コペルニクス基地は決定的な航空母艦に相当するモデムであった。



7 彼は、9月20日の衛星衝突を1週間後にコペルニクスが失われたことと結びつけた。



8 彼は、主張されている宇宙戦の敗北が開戦が始まる前に将来の戦争の道筋を開いたと主張した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第34号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第34号

1978年5月26日

テーマ2 アメリカの地震・気象・飢餓

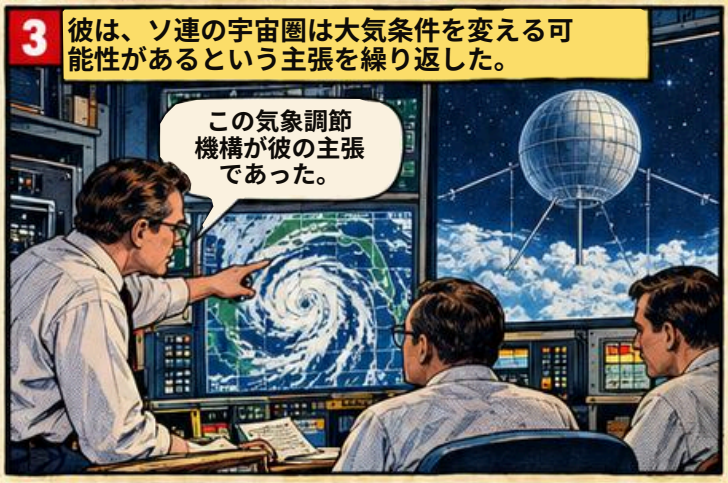
1 ベターは、飢餓が人々と政治力に与える影響について社会学者P.A.ソロキンを引用した。



2 農作物の喪失と植え付けの遅れはアメリカの飢餓の脆弱性を増大させる可能性があると警告した。



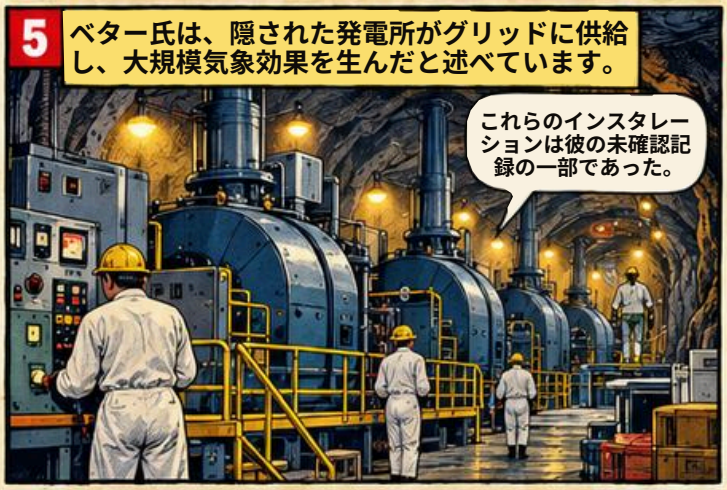
3 彼は、ソ連の宇宙圏は大気条件を変える可能性があるという主張を繰り返した。



4 同氏は現在、天候操作用のアメリカ製の海底ケーブルを、米国が管理している海岸網を主張している。



5 ベター氏は、隠された発電所がグリッドに供給し、大規模気象効果を生んだと述べています。



6 競合するシステムでは天候を競い合い、一般の人々がコストを負担する。



7 地震や津波を誘発することを目的とした、海底兵器に関する疑惑を改めて表明した。



8 奇気象と大きな物理上の危険性を予測し、リスナーに以前の警告を再訪するよう促した。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第34号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。

PETER DAVID BETER・音声書簡 第34号

1978年5月26日

テーマ3 ベター博士の公告

1 5年間の著作、放送、テープの制作の後、ベターは作品の成果を評価するために一時停止した。



2 1968年から1973年までザイールでの仕事と、そこでさらに深まったキリスト教信仰を思い起こした。



3 彼は、彼の本とラジオの登場は新しい連絡先と情報源をもたらしたと言いました。



4 氏はクロスチェックのヒントと、不正確あるいは不正な情報を拒否したことを説明した。



5 1976年9月16日、ブラウン将軍と会議し、水中ミサイルに関する主張を思い出した。



6 彼はサボタージュ恐怖と市民障害の準備を、彼が「ガーデン・プロット作戦」と呼んだものに結びつけた。



7 彼の自白は、彼の努力の本来の目的が失敗したように見えたことだった:国家災害を防ぐこと。



8 彼は悔い改めと再生の可能性のイメージとしてキリスト教の信仰とニネヴェの聖書の物語に目を向けました。



出典・Peter David Beter — 音声書簡 第34号・www.peterdavidbeter.com

ベーターの語りをもとにした漫画です。主張を史実と認定するものではありません。吹き出しは脚色した言い換えです。